

## 2 夫と妻の家庭生活における活動について

別府大 伊藤 富美

家庭生活の諸領域に対する活動はそれへの参加によって、家族関係の客観的尺度の基準となり得ると P. G. Herbst は考えた。そしてそれらの領域への参加度及び決定権の所在、それに伴って生じるコンフリクトの研究を行っている。

その方法は、従来のような直接、対象にむかってなされる questionnaire でなしに子供をとおして父母の活動を評定回答させている。このような子供の回答にあらわれた行動の認知的事実と実際の客観的事実とは、ほぼ一致するということが中村氏の研究によって確かめられている。

そこで、我国の家庭生活内における諸活動に対して、夫と妻がどの程度、参加しているかによって家族構造の類型へ approach しようとした。

本発表は、都市と農村との地域差によって夫と妻の活動領域及び参加度の相異と、年齢差によるそれらを比較しようとして試みられたものである。

対象家庭は、大分県下の O 市と Y 村の小学校六年生の児童を含む家庭を取りあげた。